

「知識データベース」

1. IBMから学んだ事

右上は、「知識データベース」としてファイルしている資料です。'95年に創業しましたが、初期の頃は紙ベースでファイルしていました。その後、自社のHPが出来たのでHPに記録するように変化して、最近PDF化して文書管理システムで保管するようになっています。当初の書類は書庫に入っていますが、必要があれば取り出して参考資料として活用しています。

右中はサラリーマン時代に頂いたIBMの「THINK」の立て札です。「考えよ」ですが、私は「試してみよ」と理解しています。何故なら、考えただけでは何事も形にならないので、私は「試してみる」と置き換えてアイデアにトライして来ました。試してみると具体的になり、着想と現実のギャップもハッキリします。ギャップを分解して要因を優先順位をつけるのですが、物を作るのではないので「直感」した大きな要因で十分な結果が出るのです。「これは面白い！」と直感したら、まず、出来る形でやってみるのです。確かに、自分だけが「面白い」というケースもありますが、自分の直感力を信じてやり続けると周囲も理解し始めるのです。

右下は、私が「成功の方程式」と名付けているものです。誰も「心」でアイデアが浮かぶのですが、そのイメージを思案ばかりで具体化しないケースが多いのです。サラリーマンの方は「やってもやらなくても同じ」という心理が根底にあり、敢えてトライして苦労した上に失敗したらどうしようという防衛反応が強くなるのです。誰かが成功すれば、それを真似ようという追随型心理です。



成功の方程式

心が変われば、行動が変わる
行動が変われば、習慣が変わる
習慣が変われば、人格が変わる
人格が変われば、天命が変わる

2. 「自信」= Σ (実績)

右上は牧師さんが聖書片手に説教をしているイラストです。この聖書が重みを出していると考えます。因みに、日本のお坊さんはこのスタイルではありません。私は、経営コンサルタントを始めた頃は、このイラストを参考にして「知識データベース」の概念でOHPを使ってセミナーを行っていました。OHPフィルムをファイルしておき、必要な物を取り出すアドリブで、その場の雰囲気に合わせて構成を即興的に作っていました。現在はパワーポイントなので、即興的にセミナーを行なうにはパソコンの操作が難しくなっています。若い人で上手な方はソフトを切替ながら展開されますが、その場の雰囲気に合わせるという意味では自由度が小さいように見えています。

右下はサミュエル・ウルマンの詩「青春」から「若さ」=「信念」x「自信」x「希望」と公式化した物です。私は「自信」= Σ (実績)と考えており、実績には成功も失敗もあると考えています。その積重ねが「自信」に繋がるのですが、その「実績」を見える化する手法としてファイルがあると考えています。実際に、紙ベースばかりでなく、最近ではHPに数多くの資料を掲載しています。データ化する事で検索の速度が速まり、かつ、資料としても品質が維持できるのです。

つまり、過去の資料を捨てずに「いつでも引き出せる」ようにして保管する事を習慣化しています。「自信」= Σ (実績)としていますがファイル化する事から始まると信じて長年実践しています。「あれ」と思った時に活用できるので助かっています。



無料ソフトより

若さ = 信念 x 自信 x 希望

3. 集団脳も知識データベースが必要

前号で「集団脳」を書きましたが、情報共有がポイントです。例えば、TVで名刺管理のアプリが盛んですが、人に会ったという証が名刺なので、それを電子化して共有するという構図です。このアプリが名刺情報以外に何を共有化できるかが課題です。電子書類として他の情報を絡める事ができれば集団脳として威力を発揮すると推測します。何故なら、他者が情報を求めるのは、自分の知りたい事に関連する物で、例えば、商品・技術・サービスの情報なのです。「こんな加工」と依頼された時に検索できれば最幸なのです。実際に、あるお客様では必要な技術が発生した時に、社内で聞く訳ですが、その時に居合わせていないと情報を得られないケースが続出しているのです、名刺管理のようなシステムで経験を共有化する必要性が出ています。

また、あるお客様ではエクセルに情報を記述して共有フォルダーに登録して検索をされていますが、追加や更新がスムーズでないので情報が古くなっているケースがあります。やはり、電子文書管理システムで、次々と登録して検索で串刺しにして情報の遍歴を知る方が実効性がありますが、これも発生時に登録するので手間が増えるというデメリットがあります。外部システムから電子文書管理に自動的に送り込む事が望まれます。弊社の電子文書管理は一部で自動追加機能が出来るようになっているので、さらに応用性を高めたいと思っています。

各自の経験を共有化する事が大切です。経験データベースを構築して「誰がどの業者とどんな業務をいつ行った」という情報を蓄積して、曖昧検索で絞り込めるようにしておき、候補にあがった情報で個別に「誰」を特定して詳細を聞く流れを風土化する事で「集団脳」が機能します。情報登録は難しいですが「商品・技術・サービス」とシンプル化して登録しておき、検索時に詳細情報を見れるようにしておくのと「誰」に聞く場合でもスムーズに展開ができるようになります。

4. 「知識データベース」

時代はますます複雑化して行きます。昔なら「〇〇屋」とシンプルだった物が、今は「〇〇」という名称でも違う業務がメインになっているケースが現れています。この事は、各自の経験にも当てはまります。過去の経験がベースになって候補が絞り込まれるのですが、その経験は古くて今は出来ないという現象が現れるのです。このミスマッチを回避する為に HP を参照するのですが、その HP が古いままという事情があります。

こういう現実から「知識データベース」の精度に限界がある事を理解しておく事が大切です。「十年一昔」と言いますが、現在は「十年」ではなく、「一年」というケースも起こりえるのです。例えば、帝国データバンクなどの企業情報会社は、定期的に調査していますが、基本情報では古いままというケースが多いのです。メンテナンスの限界があるのです。

しかし、何も手がかりがないよりは、情報が古くても辿り着き変化を知る事でアップデートできるのです。多くの場合、変化した先を教えて頂けるので、スムーズに求める所へ辿り着けます。「きっかけ」を見つける機能として情報が役立つのです。

また、第1項・2項でご紹介したように、個人の場合でも「知識データベース」化しておけば、新しい事を始めるにも手掛かりを得る事ができて役立つケースが多いのです。私の場合、800号を超えていますので、過去に記述した資料を活用して新しい号を書く事が多くなっています。右掲は HP の目次ですが、これから622号に辿り着き「若さ」＝「信念」x「自信」x「希望」に辿りついていきます。また、データはPDF化して保管しているので引用が可能なのです。シンプルな工夫ですが、過去を引用するケースでも自分の資料を基に行えるので説得力が増します。「ちよつとの差」は持論ですが、実感しています。



【AMiニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryu.html> にあります！】